



下校時間・公衆便所

こたつぶとん



……この間、小学校高学年を犯った。
夕方一人で俯いたまま
携帯に夢中になってるのを見つけたんだが
ピンクの紐キヤミと水色のミニスカ……、
そしてイチゴ柄のニーハイ。

……十二歳くらいか。
俺の大好きな身体つき。

この年齢独特の
微妙な膨らみ……。



ミニスカから伸びる
スラリとした脚……。

余計な脂肪など
付いていない。



……堪らん！



子供は腕章をしたジジイ連中が見回っている間に遊んでいれば良いものを、学校で教わっている身の守り方なんて何の役にも立たない事を……

タップリと分からしてやる……!!

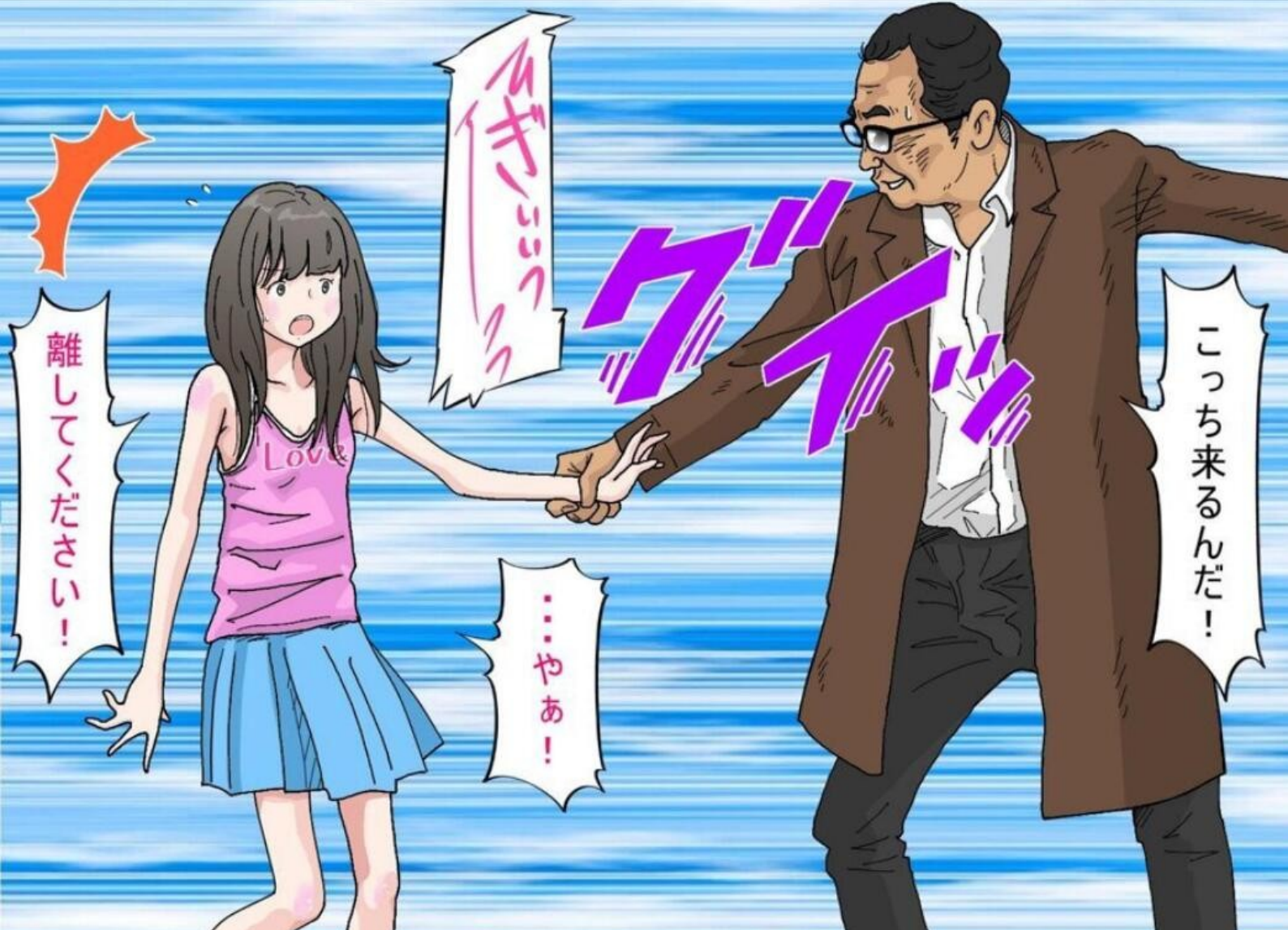
ちよっと良い？

声を掛けたら予想通りの態度。

不審者に声を掛けられたら逃げられるように教えられる。うん、だろ。

人が居ないのを確認し俺は手を伸ばした







勢いよく腕を引つ張られた為、
少女はバランスを失い
小石に足を踏き
尻もちを付いた……。

ずずず……

くいた……

膝を立てた時に
少女の純白の
パンツが見えた。

く……



く……

く……



はあ
はあ
はあ

く……

パンツをじっくり官能した後
俺は大分前から使用されていない
公衆便所に少女を連れ込んだ……。

……臭い!!
汚い……!!

いやあー!!
帰して……!!

わ?!

真夏の蒸し暑い公衆便所は
鼻が曲がるほど悪臭を放っていた。

はあ
はあ
はあ

すう……

ぐり……

使われていない便器は
黄色く変色し、ウンコも清掃されず
そのまま放置されている……。



肩からほっそりした
両腕をなで...

スベスベだあ。



俺はマネキンのように棒立ち
している少女に近づき
顔をなでたり



セックス、
させろよ...



抱きついて尻をじゅくりと
しつこく撫でまわした.....
俺のイチモツはもうカチカチになっていた。



全体的に骨っぽい身体つきだがちゃんと女の子していた。

キヤミを首まで捲り上げると膨らみかけのオツパイがプルン!って揺れた。

ちゅぽ
プーッ



成長途中の胸を存分に楽しんだ。



両手で撫で回してから揉んだり



乳首を摘まんだり

少女は涙を流していたが、黙って俺を見ていただけだった。それを良いことに俺は汗ばんだ肌に吸い付いた。

……子供おっぱいうめ。



おっぱいの感触をしつこく楽しむ……

むにいい

ぬちぬち

もみ

もみ

揉みまくり乳首を舐め

んやう

れろ

桜色の乳首をんぐんぐ口に含み

ちゅーちゅー
ぢゅーぢゅー
あん

むにゅ

ガウ



無理やりキスをした。

んぼっ♡



少女の頭を掴み
自分の方に引き寄せ



再び可愛い顔に舌を這わせる。

ぬちやああ



舌とポが温かい口の中で
自分と触れる感と、
自分何さされてるか
呆けた表情。

グッグッ
グッグッ
グッグッ



グッグッ
グッグッ
グッグッ



その顔でチンポを咥えてる
少女を見てたら興奮が倍増した。

グッグッ
グッグッ
グッグッ



今度は俺を気持ちよく
してくれよ、やらないと
何時までも帰れないぞ。

立ったまま
少女の鼻先に
俺の包茎チンポを
近づけた。

勿論洗って
などいない。

ぐっ

くっ臭い



高学年にそういう事をしている事実に興奮する……

ムクッ



余りにも少女が大人しいのに調子にのった俺はトイレの床に寝かせて脚を開かせると

んっ♡

すっ

チンポを割れ目に擦り付けた。



えっ!?

ズツ

カチカチになったチンポを握って割れ目をこじ開けるようにして強引に押し込んだ。

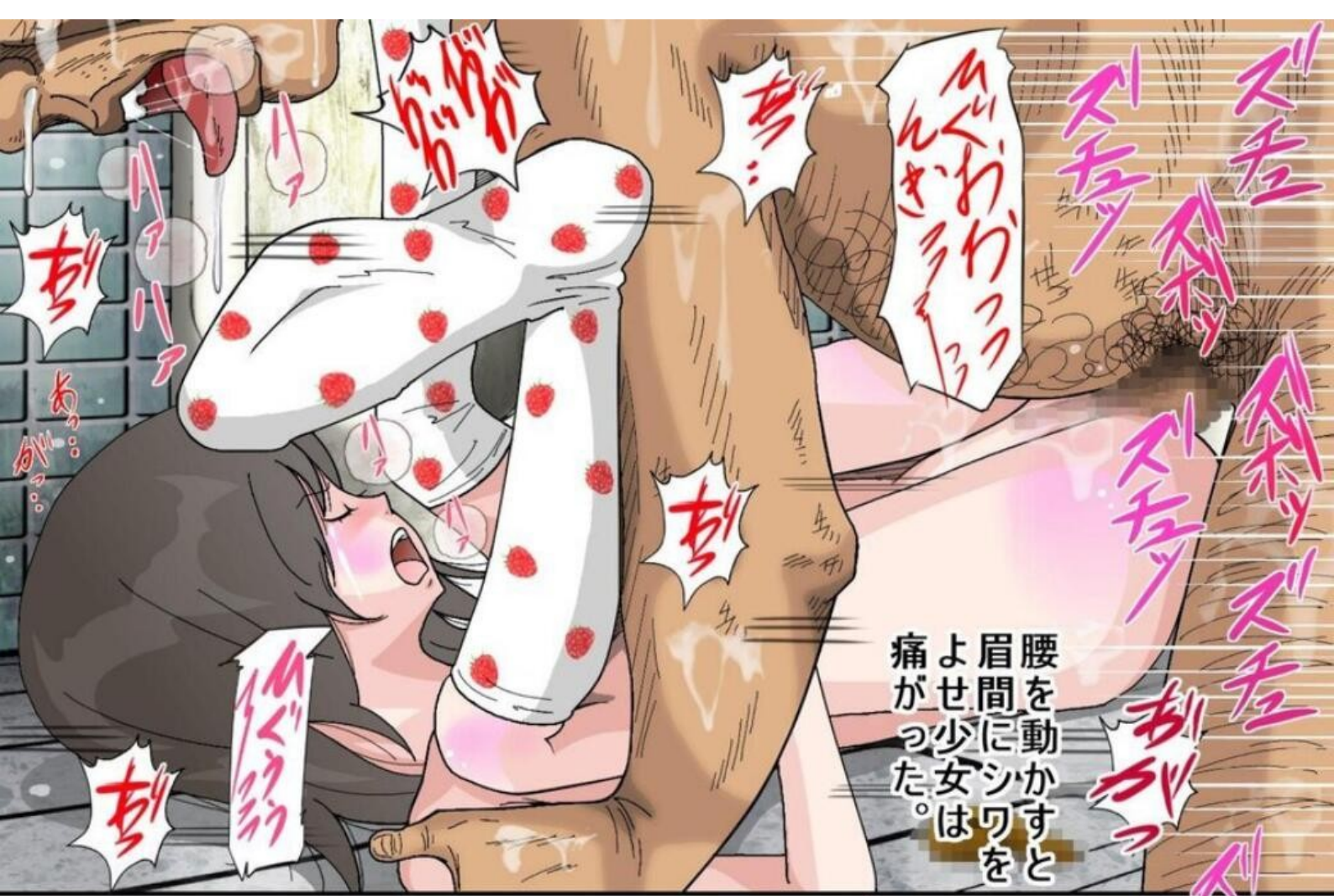


ムキムキ

ズッ

ズッ

入った!



腰を動かすと
眉間にシワを
よせ少女は
痛がった。



もう少しだからな、
動くなよ……。

俺はハアハア言いながら
普通に女を抱くように
正常位で腰を振りながら
キスをしたり小さなオツパイを
揉んだりして気分を高めて行った。



痛いよ……

すると少女は
小さな声で
泣きじゃくり
だした。

自分が気持ち
良い事で
一杯だった
俺はお構い
なしに腰を
激しく動かした。





俺の臭い包茎チンポが幼い少女のマスコと擦れて泡だらけになって出入りしているのが見えた。

少女のすすり泣く声と淫らな音が薄暗い公衆便所に響き渡る。

…悪臭で満ちている公衆便所で（しかも男子便所）床にはカチカチになった糞が転がっている。

不潔極まりない床に手を付いて見知らぬ中年男に高学年の少女がバツクで突かれまくっているのだ。

俺は何発も少女に欲望を吐き出した。

…そろそろ親が搜索願を出す頃だ。次で最後にするか。

流石に十時を
過ぎていたので
流石に俺は焦った。



うううう

ヒツク

ヒツク

ヒツク

ヒツク

…俺は周りに人が居ないのを
確認して公衆便所を後にした。

ヒツク

ヒツク

おわり



妹・真奈美



司郎は部屋で
オナニーをしていた。

はあ
はあ
はあ
はあ

目を瞑ってある光景を
思い出しながら
一物をしごく。

はあ
はあ
はあ

数日前、偶然妹の
裸を見てしまったのだ。

洗面所に入った
時に……

心の中で呼びかけて
いるのは妹の名前だった。

真奈美いっ……

真奈美いっ……



妹に対する見方が変わった。



妹など所詮子供としか思っていないかった。

お兄ちゃん!



来年■■■に上がる妹。



だが、あれ以来...



グラビアで水着姿の
アイドルを何度も
見ていたが……



あははは。

一緒に風呂に入らなくなつて何年経つのか忘れてたが。



妹の身体はそんなものとは比較にならない美しさだった。



その頃とは身体付きが全然違っていた……



胸がプクっと
膨れ……。



そしてそれは今まで見た
何よりも白く美しかった。



全体的に
薄く肉が付き。



丸みをおびていた。



その裸体の美しさは
激しい衝撃だった。



真奈美い……
イクぞっ……
イクうっ……!!

お兄ちゃん、
ここ見て……

頭の中で妹が甘えた声を
上げ悶える様を
想像しながら、司郎は
一物をしごき続けた。

ぐいっ



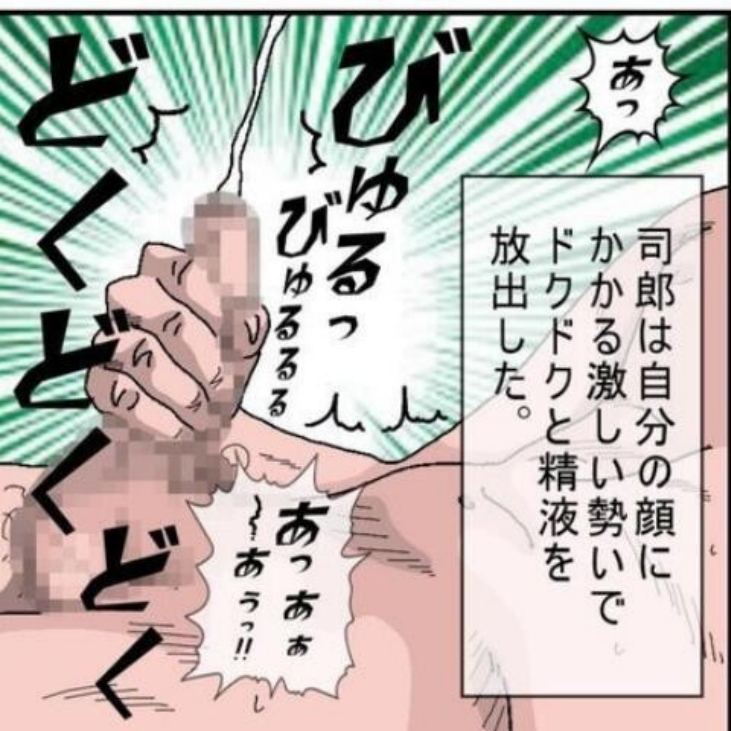
想像をすると息が
荒くなり、射精感が
高まる。

はっ
はっ
はっ



手の動きが
早まった。

しゅ
しゅ
しゅ
しゅ



どく
どく
どく
どく

びゅ
びゅ
びゅ

あっ
あっ
あう!!

あっ
司郎は自分の顔に
かかる激しい勢いで
ドクドクと精液を
放出した。



お兄ちゃん、
吸ってばい。



オナニーを覚えて以来、アイドルのグラビア写真で何度も射精してきたが、妹の裸をオカズにして行う行為には、それとは比較にならない快感があった……。



(また……、しちまった……)

終わってしまうと、妹を対象にしてオナニーしている事に罪悪感を感じる。

はあ
はあ



始める時は興奮して気にならないが一旦射精し冷静になると、実の妹をオカズにしている事が悲しくてたまらない……。

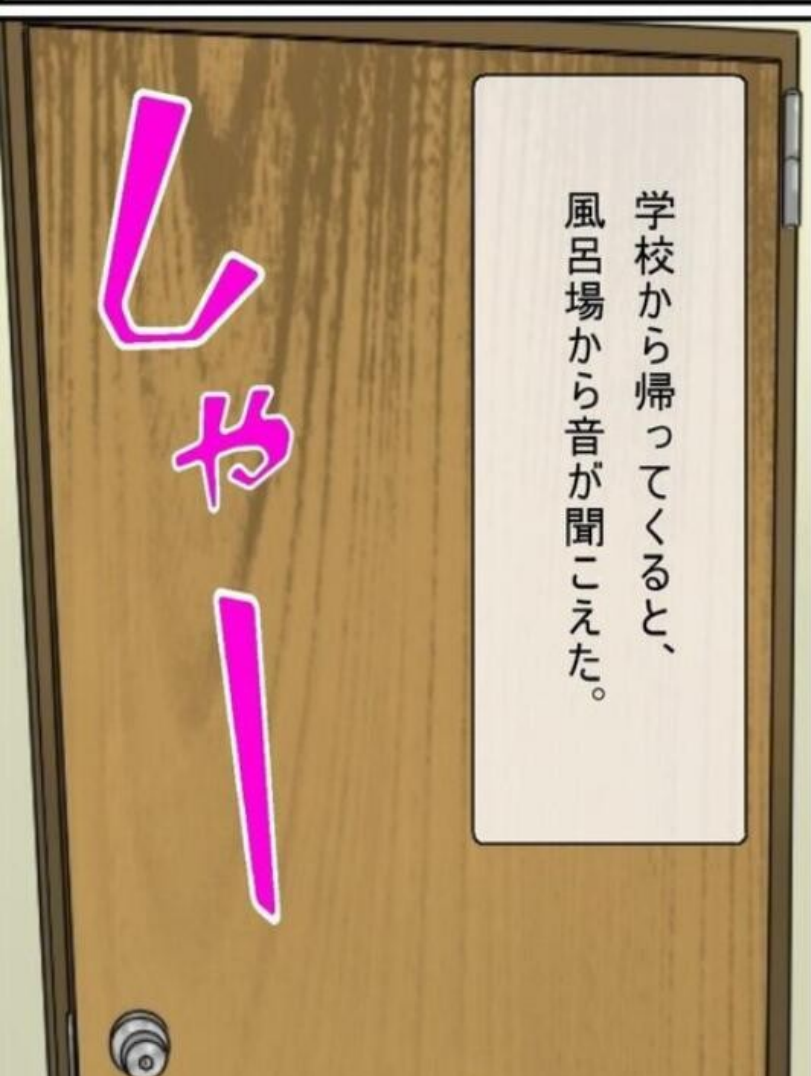


だが、そう思っても妹の白く柔らかかそうな身体を想像してしまうとすぐに肉棒が硬くなり、しごかずにはいられなくなるのだ。

(何とかしなきゃな……)
司郎は止められない自分を情けなく思いながら、空しく後始末をするのだった。



次の日……。



しゅー

学校から帰ってくると、
風呂場から音が聞こえた。



いちよん

シャワーを浴びているのか…。

しゅわー



母は帰りが遅いと言っていたので、それは妹だろう。

どきどき



ざーんっ

肉棒が一気に硬くなった。
(だ、誰も居ないんだよな…)
これはチャンスだ。
司郎の心臓は激しく脈打ち、
身体が微妙に震え始めた。

しゅわー



妹が裸でいる事を想像してしまう。

すっ

ゆっくりと洗面所の前まで移動すると、バレない程度にドアを開け覗き込む。
(これなら見えるぞ…)
バッチリ見えるぞ…

シャワーを終えた妹が出てくれば、夢にまで見た裸体がまた見れる。司郎はドキドキしながらその時を待った。





ぎんっ ぎんっ

(ああ…綺麗だ…
なんて綺麗なんだ)



水の流れが止まり、風呂場のドアが開く。(…!)

待ち焦がれた妹の裸がそこにあっただけに眩しいほどに白い肌と、つつましいが緩やかに山を描く胸の膨らみが目に映る。



(さ、触りたい!)

(舐め回したい…!)

(…胸を揉みたい!)



妹は何も気づかず身体を拭いている。

隠れたり現れたりする裸体がまるで誘うように見え司郎は抑えられない自分を感じ始めた。



妄想の中でしてきた行為がグルグルと頭の中を駆け巡る。

身体を拭き終えた妹が下着を取った。(お、終わり?)



ドアを勢いよく開けた。



このままではもう裸が見れなくなってしまう。こんなチャンスは二度とない。頭に血が上りクラクラ



欲望に侵された脳は冷静な判断を奪ってしまった。妹の裸を見ることだけで頭が一杯になっ



妹は叫び声を上げ、とっさに、身体を隠す。



何やってるのよっ！



真奈美！



お兄ちゃんちよつとやだ... やめてよね...



ばっ

やあ!!

司郎はそのまま近寄り
しまった。タオルを剥ぎ取って



司郎は腕を掴むと、
力を入れて広げ
ようと、妹も
負けじと逆らう。
だが、兄の
力にはかなう筈も
なく、やがて胸が
あらわになった。



何時もと違う
兄の様子に驚いた
表情を浮かべている。

妹は胸を両腕で
隠しながら、

さきほど見た時にも思ったが、更に間近で見ると妹の胸は凄まじい美しさだった。

離してっ!!

(…すげえっ!)

手を伸ばしてギョツと掴む。



妹がビクッと身体を震わせて、今まで聞いたことのない様な甘い声を上げた。



またビクッと反応し、声を上げる。



何て柔らかいんだ…

掌から伝わってくる感触は今までに経験した事のないたまらない快感だった。

小さいながらもムニユムニユといった感じで形を変える乳房。



あっ、あんとっ 止めてっ。



あつ、あつ、ああんい、
だめ、やっ、おにい、
……止めて。

れろ

お

ぴくん

あん



妹の慎ましい膨らみを好きな
ように弄び、スベスベとした
肌の感触に酔う。

むいゅ

びくっ



あつ、あつ、
ああん……

ちゅば

ちゅる

もみ

もみ

チュバチュバと激しく
吸い上げ、右の乳房を
吸っては左に移動し
すぐさままた右に、
といった具合に両方の乳房
を激しく吸いたてていく。



快感に力が抜けたのか、妹は抵抗を止め、
顔も上気しトロンとした表情を浮かべている。

あ

その事に気を良くした司郎は、
自由になった両手でさらに
揉み込んでいった。
(ああ、何て気持ちが良いんだ)

鼻息を荒くしながら揉み続け、
ついには唇を可憐な桜色の
乳房に押し付けた。

ちゅむ



あうっ、あつ、
あああんっ。

ちゅば

ちゅる

司郎は膨らみかけた乳房を
狂ったように吸い、
その間も揉む事を止めなかった。



妹の身体からは力が抜け、ぐったりともたれかかってきた。

お兄ちゃん止めて……

お願い……



泣きそうな表情で妹が声をかけてくる。その事で、今自分が相手にしているのが、実の妹である事を思い出し、罪悪感を感じたが同時にゾクリとした興奮を覚えた。

兄として守るべき妹を襲っていると言う罪悪感があつたが、それを遙かに超える快感が司郎の心を支配していた。



妹の身体を存分に味わいたい、その思いで頭が一杯だったのである。(真奈美ごめん：俺、したいんだ、どうしても……)

心の中で謝りながら、スラリとした脚を太ももから脚の先まで舌を這わせていく。



足の指一本一本の間にまで舌を入れて隅々まで舐め上げていった。

あん



あ、いやっ……そんな、あっ、ああんっ……!!



くぶ

司郎は乳房を吸い上げながら秘所に触れる。妹の弱々しい声が響く。(こ、これが...) 初めて見る女の秘所。綺麗な縦筋...。(すげえ) しかし、テラテラと光を放っているのだ。



!!

ああ、見ちゃいやあ!

司郎は、今まで後のお楽しみとしてみなかつた妹の女の部分について顔を近づけた。よく見える様にグイと両足を広げる。



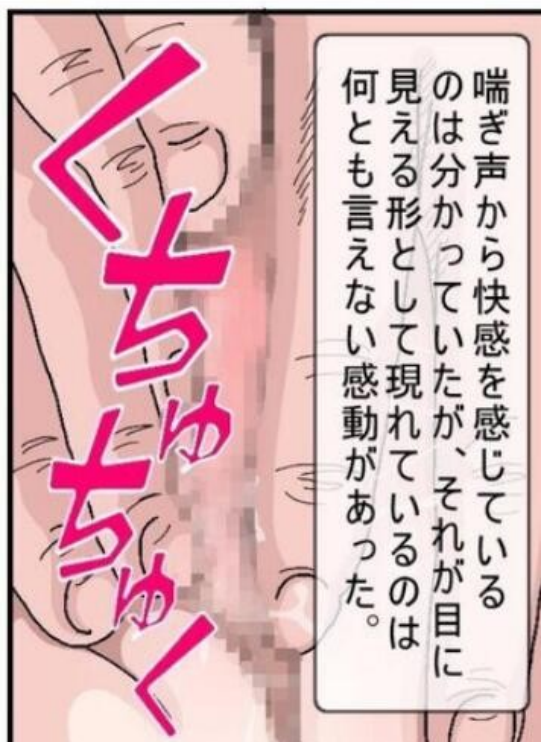
はっ はっ はっ

秘所から口を離すと、司郎の口と妹の秘所から唾液の糸が伸びた。

...はあ、はあ。



(俺が真奈美を感じさせているんだ) 男として女を快感に導いている事実。心が満足感で一杯になる。司郎は舌を伸ばし秘所に口をつけた。



喘ぎ声から快感を感じているのは分かってはいたが、それが目に見える形として現れているのは何とも言えない感動があった。



もう完全に司郎は
暴走していた。妹の身体を
存分に味わいたい、
その思いで頭が一杯だった。

やあつ、そんなの
くつつけないでえ。



司郎は何度も妹の乳房や
秘部を吸ったり舐め、
自分の一物を小さなお尻や
太ももに擦り付けた。
スベスベとした肌が擦れる
だけで、今まで感じた事の
ない快感を送ってくる。





司郎は頭を
掴み強引に
妹の口に
突っ込んだ。

あっ!!



そして、ブルンと
周囲の空気を
震わせながら司郎は
肉棒を妹の鼻先に
突きつけた。

妹はそれを見て、
目を見開いて驚いた。
すっかり充血して
弓なりになった
肉棒を間近で初めて
見たのだから
無理はない。

び

!!



ずぼお

う



どぶ

!!

でる



余りの気持ちよさに
司郎は狂った様に
激しく腰を動かした。

くちゅ
ちゅ
ぶちゅ

んっ

んっ



どす黒い
欲望を、
実の妹の
口に吐き出し
たが、静ま
らなかつ
た。

びん
びん

つー



かはっ!!



突き入った肉棒に巻き付く
幼い肉壁。その全てが
欲望を刺激し更に亀頭が
大きく膨れ上がる。
上がって行く。

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん



脂汗を全身にかいて悲鳴
さえ細くな
った妹。

いぎ

うっ



ひいああ...!!

司郎はグッと先端を
押し込むと狭い肉壁が
広げられ、妹は悲鳴を
上げる。(真奈美い...!!)

ぐ

みちみち

無理やりミチミチと
司郎の肉棒が
突き刺さって行く。



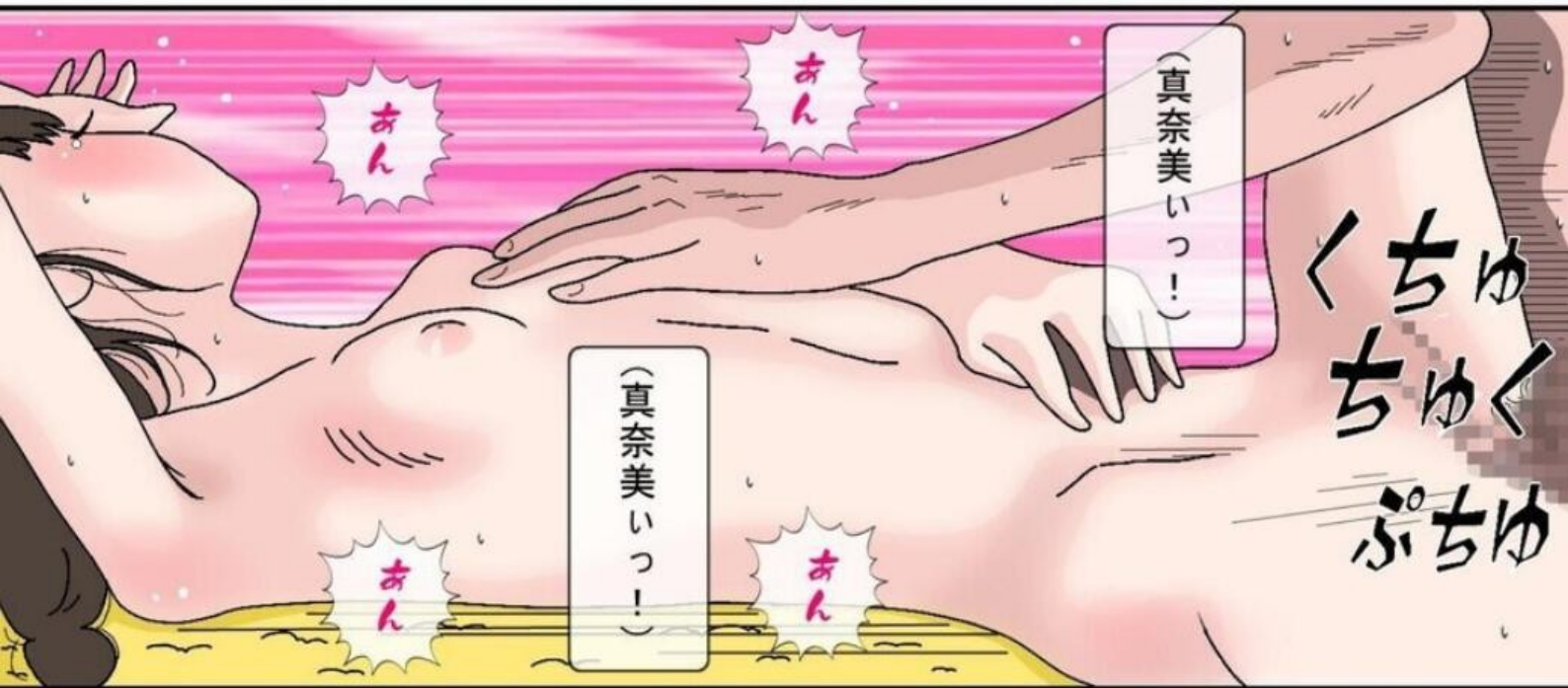
…もう、
…止めて
お兄ちゃん。

ぱん
ぱん

ぱん

ぱん

生まれて初めて
のセックス。
歳の秘部を
楽しむ司郎は
妹の泣き顔を
見つつじっくり
犯していく。



(真奈美いっ!)

(真奈美いっ!)

くちゅ
くちゅく
ぶちゅ



司郎は涎を垂らし、
我を忘れて獣の息を
吐きながら肉棒を
抜き差しする。

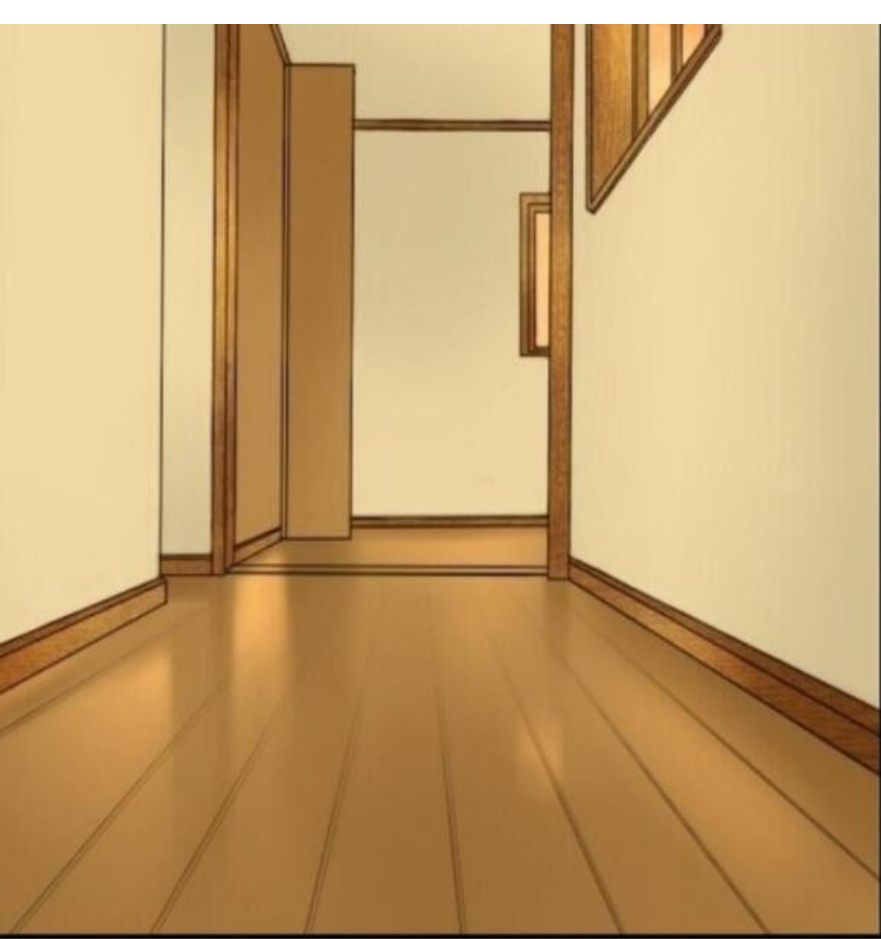


長時間かけ、
幼い身体を楽しむ。
やがて司郎は
妹の中に射精した。



……あっ……!!
(……出るっ真奈美!)



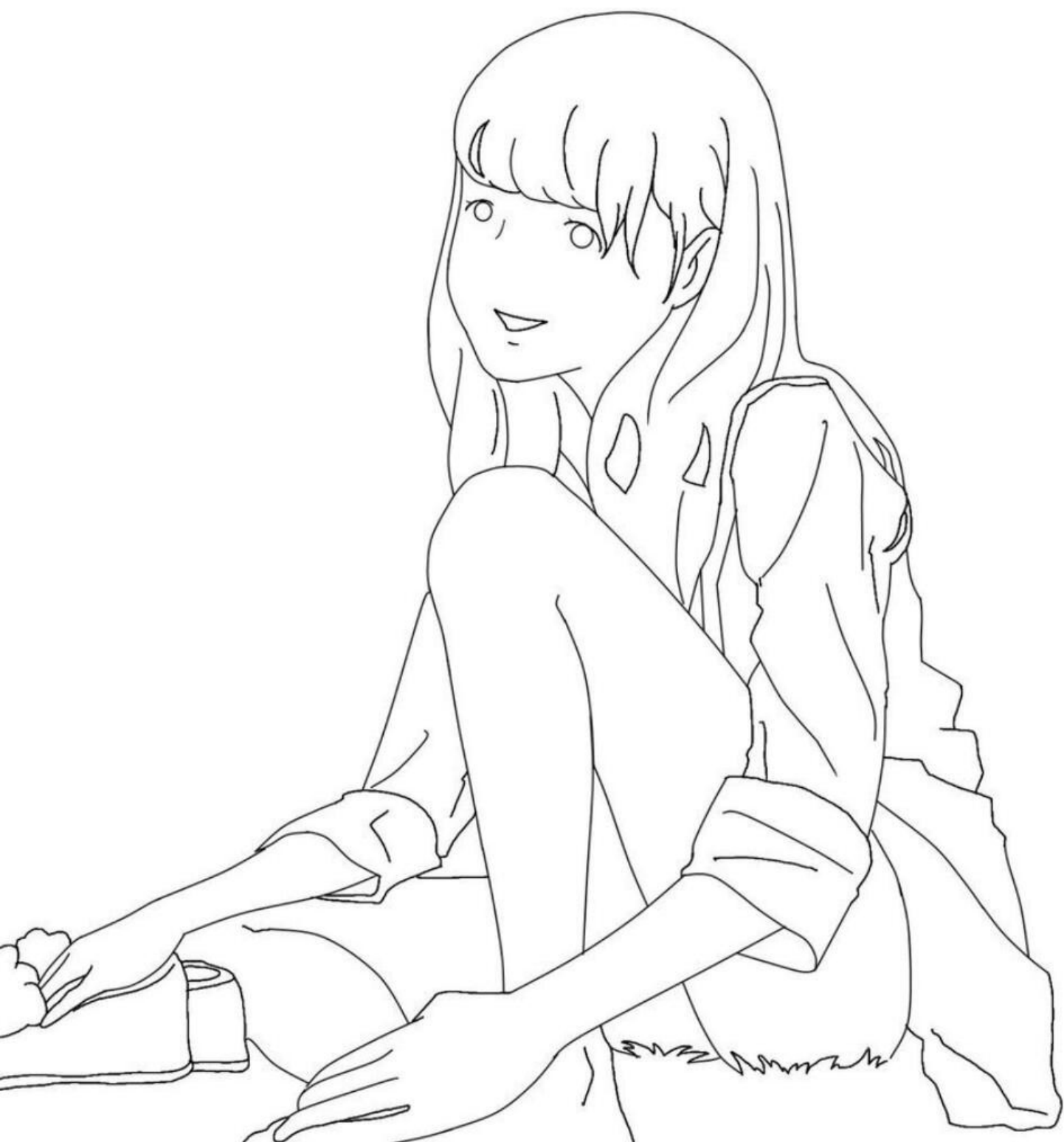



……お兄ちゃんの
馬鹿……。

山で出会った 少女。










夏休みに入ったばかりの話。

俺は四十歳、
妻子アリ。

子供とカブトムシを
捕りに行くはず
だったんだけど、子供が
夏風邪を引いて
結局俺だけがカブトムシ
捕りに行くことになった。



車で一時間かけて
山にカブトムシを
捕りに行ったわけ
なんですけど……

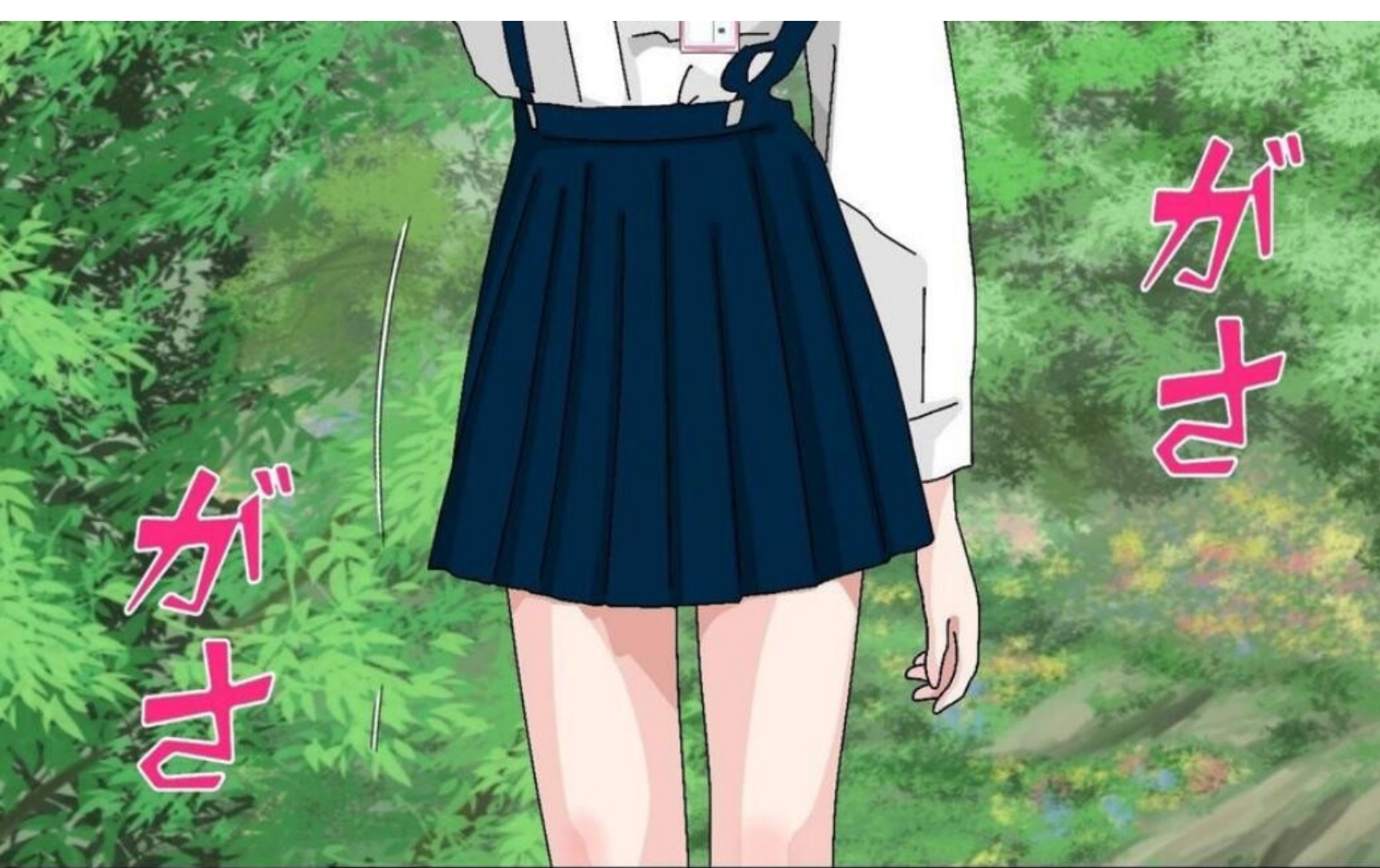
……(涙)二時間探したけど
全然いなくてあちこち
探し回っていた。

会社の同僚に、
ここが穴場だと聞いて
来たのに全くいない
困ったぞこりゃ。

みーん
みーん



諦めて少し休憩して
いた時……。





こんな山の中を
女の子が何故？

え！



あ！



良かったー！！

がさ
がさ



諦めてタバコを
吸ってたら……

山道を一人の女の子が
歩いてきた。



だったら、オジサンが
休憩終わったら送って
あげるよ。

うん。

その子はどうやら道に
迷ったらしい
名前は香苗ちゃん。
で12歳。

香苗ちゃんは夏休みで
この辺りに住む従妹の
家に遊びに来て、従妹と
この山で遊んでたけど
従妹が先に帰ったから
一人で遊んでたら
道に迷ったとの事。



竹とんぼかあ、
懐かしいな。

うん、お父さんが
作ってくれたの。

香苗ちゃんは明るく元気な子で12歳
だけどもう見え見え、身体がムチムチしてます。



うふふ。



オジサン
早くうへ。

疲れちゃった？



パンツが、
見える！

少し休んでも
良いよ。



香苗ちゃんは
ミニスカート。

ムチムチした太ももが
たまりません！



本当に最近の
発育がいいな。
は

恐らくこの制服も
この子の成長が早くて
スカートの丈も短くなって
しまったんだろう。



純白で汚れのない
パンツ……。



と言うか、座ったり屈んだり
するとスカートが短いので
勝手に見えてしまうのです。

少し休も！

だに



オジサン休んだ？
行こ！



よいしょ！

すっ

香苗ちゃんは俺に
自分の真っ白なパンツを
欲望の視線で犯されてる
事に全く気が付かない
様子だった。



んっ？
あっ、
あぁ……！

！

香苗ちゃんは喉が渴いた
と言うので途中にあった
神社によって休憩する
ことにした、

この上に水が
あるのー？

またこの神社の階段は
凄く急で前を上っている
香苗ちゃんのパンツが
ずっと見放題なのである。

ああ、そうだよ。

はあ

はあ

香苗ちゃんが階段を上るリズムに
合わせてスカートがひらひらと舞い
パンツが見え隠れする。とてもエロい。

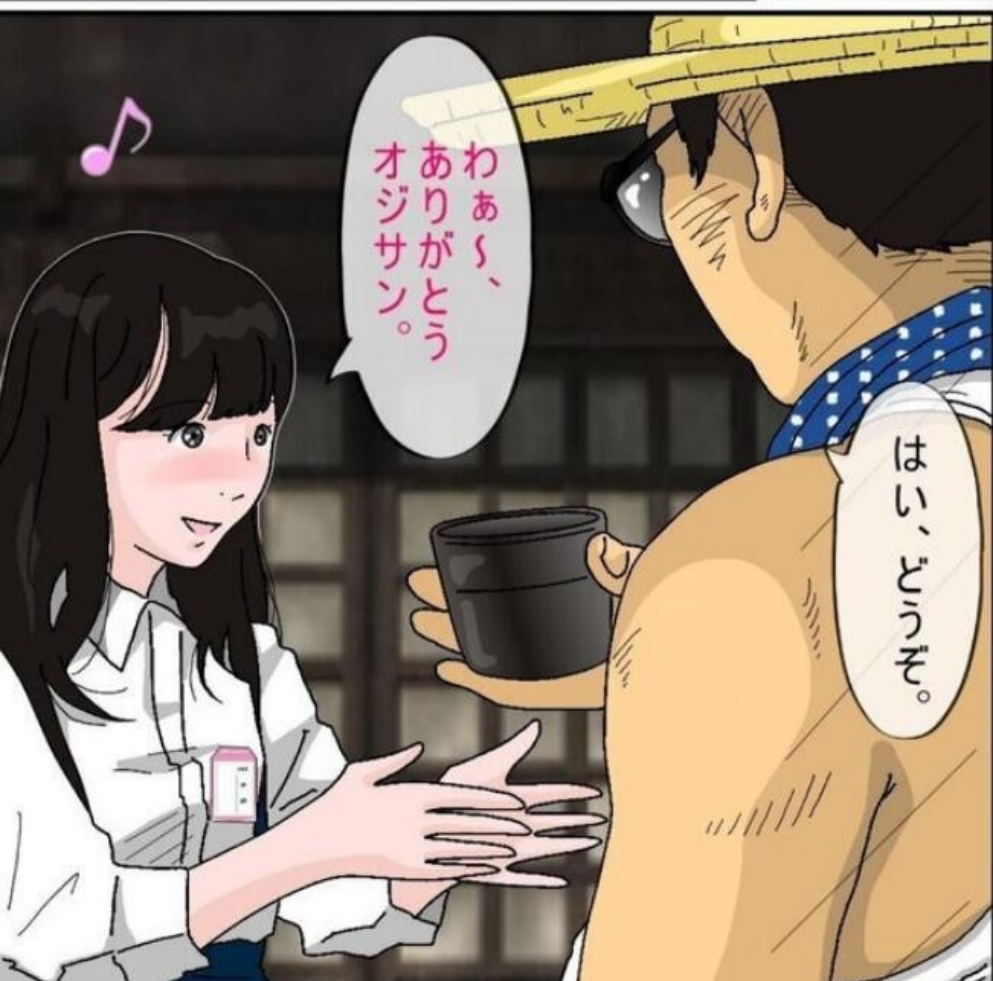
自分の子供と同年代の子に欲情する
とか正直罪悪感も感じる……

疲れたあー！

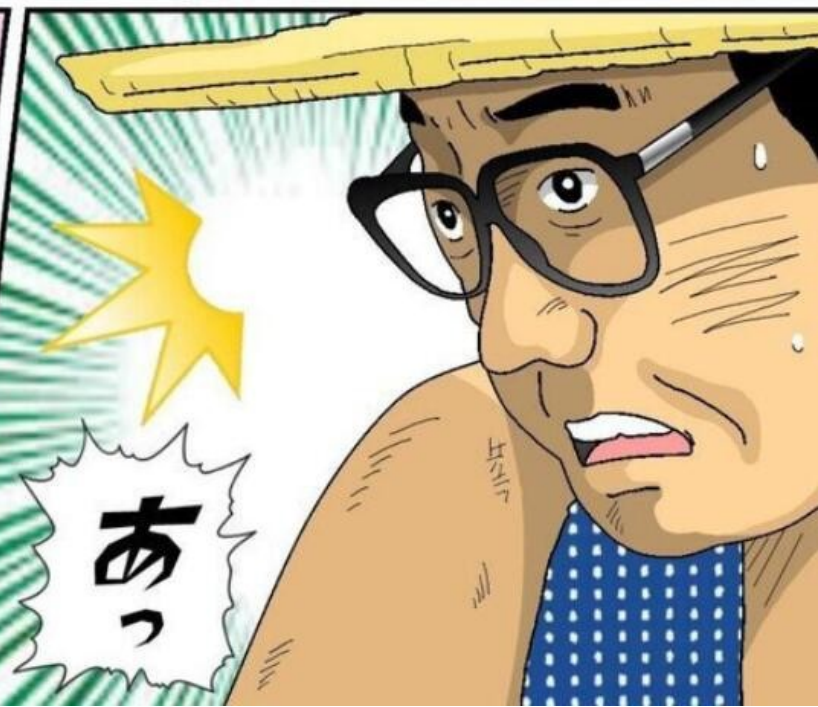
しかし……、これは……













オジサン、駄目じゃ？(笑)
あ？っ！香苗のパンツまで濡れちゃったじゃん！

あ！ごめん、ごめん！
こぼしちゃった！



ビツシヨリ、
だよお。

あああ、
乾かさないと、



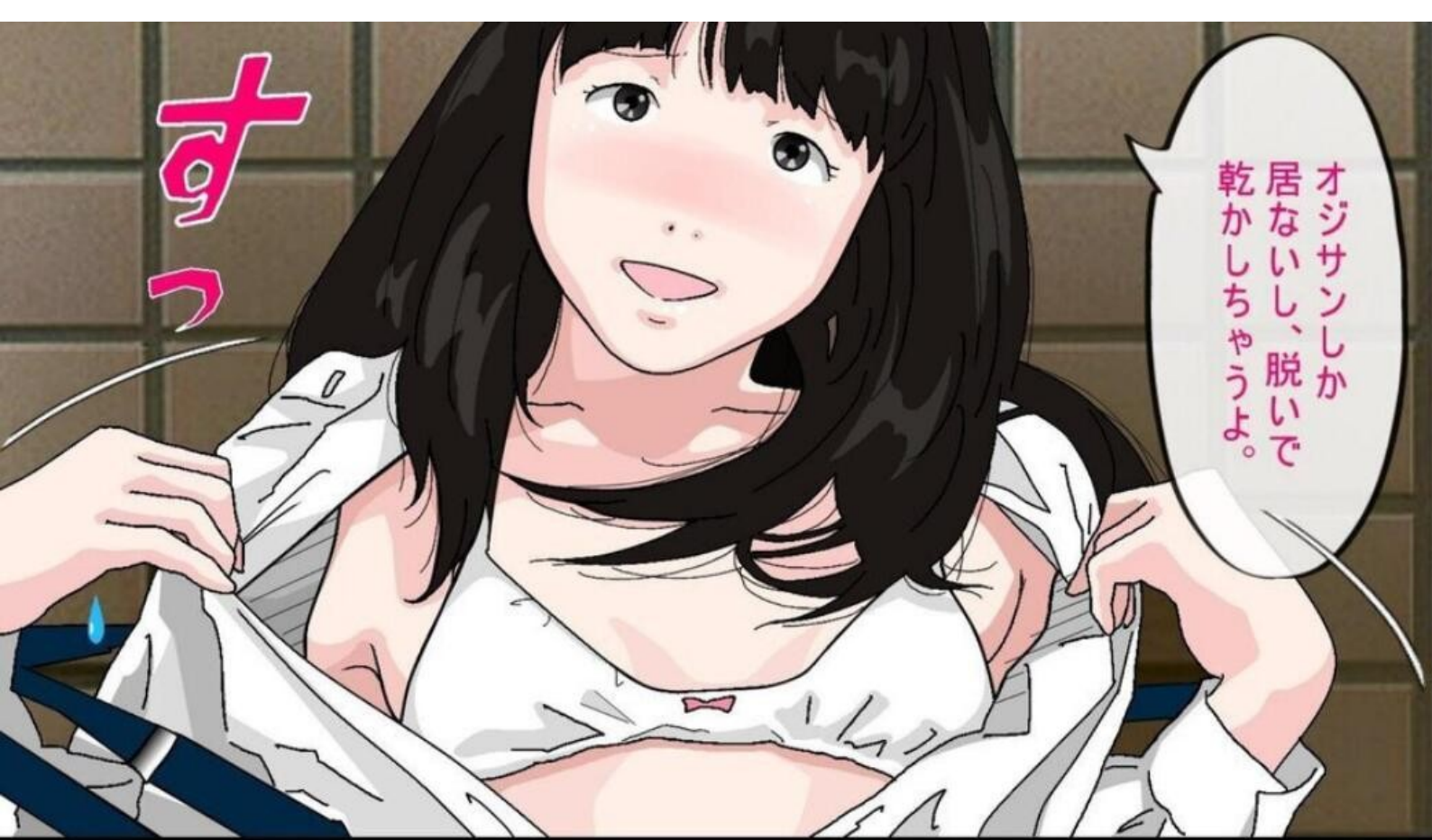
もう。

香苗ちゃんは少しムスツとしていました。



…ん？っ！
何より驚いたのは、
香苗ちゃんが自分から服を脱ぎ始めた事です。

意外と水は広範囲にかかってしまい香苗ちゃんの下着が透けてしまうほど濡れてしまった。



すっ

オジサンしか居ないし、脱いで乾かしちゃうよ。



なんて綺麗なんだ……!!

思わぬ展開に俺はもう、理性を保てなくなっていた。香苗ちゃんの肌は真っ白で日焼けなど全くしていなかった。

ぱさ



ぱち

そう言っって、香苗ちゃんは服を脱ぎ始めました。



香苗ちゃんは目を閉じていました。

(この場所は暑いから、もっと涼しいところ行って拭いてあげるね)と香苗ちゃんを連れてもっと奥へ行って香苗ちゃんを座らせタオルで拭いてあげた。



頭から、肩、腕……。そして、徐々に成長を始めた膨らみかけたオッパイを丹念に拭いてあげた。子供用ブラの上からでも小さいながらもその柔らかさは充分伝わってきた。



俺の手は既にギンギンに勃起していた。



それでも、香苗ちゃんはじっと目をつむって大人しくしていました。



そして、拭く手は更に下へ、ムチムチの弾力のある太ももをしつこく撫でまわす様に拭きました。

…お腹から
ついに
香苗ちゃんの
白いパンツに！
濡れたところは
丁度オ●ンコ
の部分。

俺が黙って
パンツの
上から
拭いてると
香苗ちゃんは
何か気持ち
良さそうな
顔をして
いました。

ふま
ふま
ふま

んっ

くちゅ
くちゅ

四十代の男の指で
●●がオマンコを
濡らしている、
溜まらない快感です。

香苗ちゃんのパンツは
ヌルヌルしていた。
俺の指で香苗ちゃんが
気持ち良くなっている
事を知ると更に興奮した。

あっ！

くちゅ
くちゅ

俺はもう、我慢が
出来ず直接指で
パンツに
触れてしまった！

すっ

そう言うと香苗ちゃんは
真っ赤な顔をしながらも
目を閉じて腰を浮かして
きました。

かあ

…っ。

香苗ちゃんパンツ
履いてると拭き難いから
脱ごうか……？



俺はドキドキしながらも素早く香苗ちゃんのパンツを脱がせた。目の前には...の綺麗なオ...ンコが！



おおっ！
すげっ！

俺は指に唾液を付けて香苗ちゃんのオ...ンコを広げたり触りまくりました。



(嬉)香苗ちゃんは、全く陰毛はまだ生えていなかった。綺麗なタテスジ。





んっ

ぶちゅく

ちゅく

あっ



くう

ちゅく

ぶちゅ

んっ



つら

みく

みく

俺は、香苗ちゃんの幼いオ●ンコを気が済むまで味わいつくしました。



あんっ

ちゃんと拭いてるよ、だから目を閉じてて。

そう言うとき香苗ちゃんはまだ目を閉じたので、再びオ●ンコを舐め舐め。

オジサン、何かしてんの……？
ちゃんと拭いてる？

びく

びく



ああ

あん

ちゅく

香苗ちゃんが喘ぎ声を出したのでビククリ！
処女でも舐められると
気持ちが良いんだ……。

さっき、散々
いじくりまわした
オ●ンコを観察し
広げたり、閉じたり
しつこく
舐めまわしました。

……あつ！
オジサンっ？
……やだあ。

俺は香苗ちゃんを
うっ伏せにさせ、
肛門の匂いを
思う存分嗅いだり

あーはー、あーはー！



香苗ちゃん
はとうとう、
ブルッ！っと
身体を震わせ
伊ってしま
いました。



香苗ちゃんは
状況を把握して
いるみたいですよ。
顔を真っ赤にして
大人しく横に
なっていました。

とにかくこの柔らかく
幼い肉体をもっと
味わいたい、舌を這わし、
舐め上げ、吸い付きたい、
という激しい欲求が
体の奥底から
湧き上がっていました。
俺はパンツとズボンを
下し、香苗ちゃんに
覆いかぶさりました。

びき

びき

こんな事して
ごめんね、
香苗ちゃんが
可愛かった
もんだから。

香苗ちゃんの
乳房は雪の様に白く、
ふにふにらしい
慎ましい膨らみの
頂点には、
桜色の乳首があった。

陥没乳首……

あっ

まるで誘うようにフルフルと
震える膨らみに、俺は
むしゃぶりつきました！

やっ、ああんっ

ちゅー
ちゅー
ちゅー

興奮した俺は乳首を
チュパチュパと何度も吸い上げ
舌先で激しく弾いた。

ちゅば
ちゅば
ちゅば

ああ……美味しい……
何でこんなに
美味しいんだ……!!

ちゅぽん
ちゅぽん
ちゅぽん

びーん

そして、弓なりに
なったチンポを
香苗ちゃんの顔に
近づけました。

俺は気の気のすむまで
香苗ちゃんの身体を
楽しんだ後に、
自分の正面に座らせた。

真夏の朝から長時間
ズボンの中で蒸れ蒸れに
なった俺のチンポは
物凄い激臭になっていました。

臭い？

臭いよ。
うん。

香苗ちゃんのお口で綺麗にしてくれるかい？

香苗ちゃんは熱心に
口を動かしている。
又ル又ルとした感触が
快感を高め、なにより
チンポを舐められて
いる事に興奮を覚えた。

うん、良いよ。

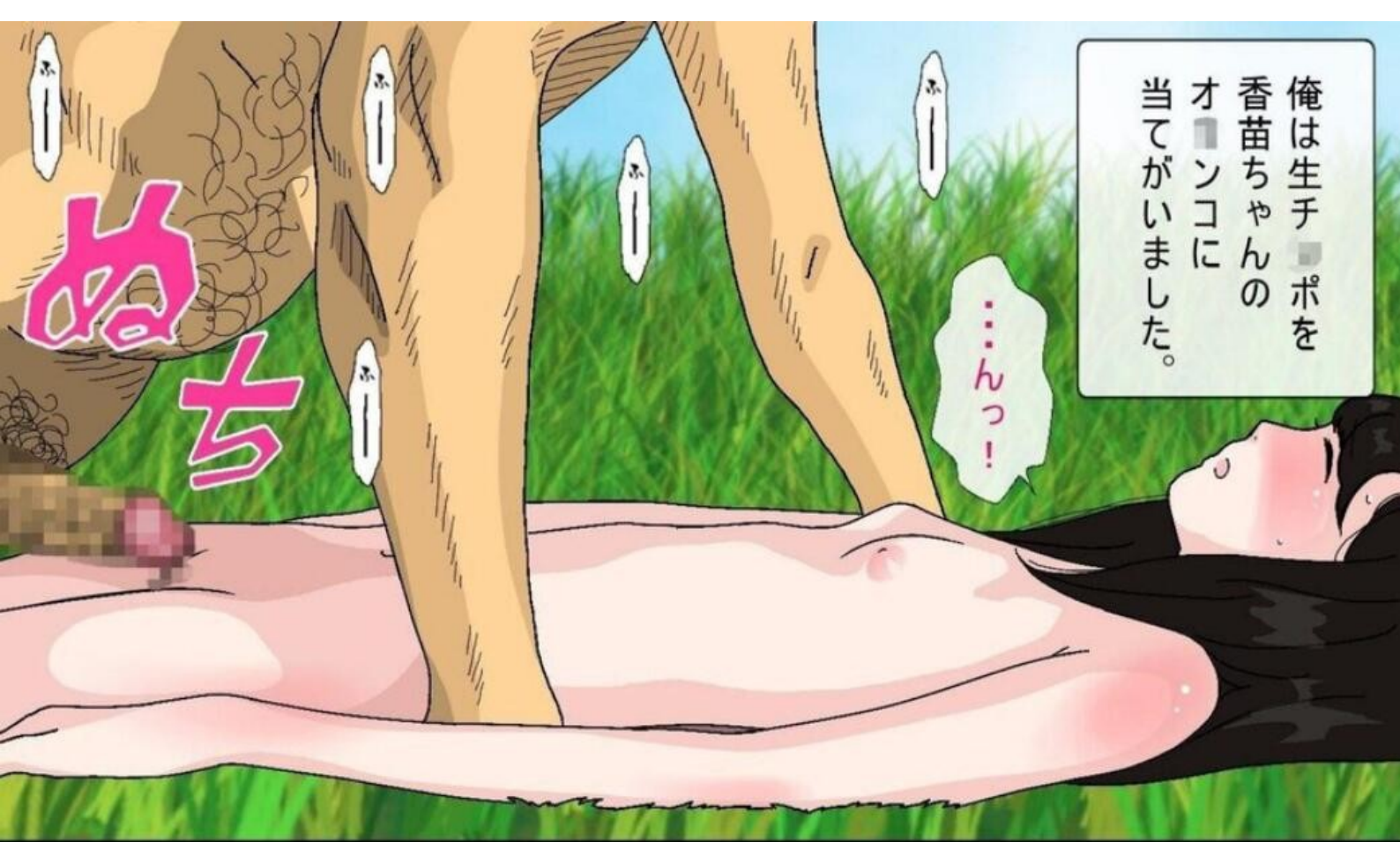
俺は思わずチンポを
香苗ちゃんの喉奥深く
まで突っ込んだ！

ずぼらう！！

香苗ちゃんの幼い顔が
己の醜悪なチンポを
咥え込み、その小さな
唇から出し入れして
いる様は、背徳的な
興奮を誘った。

くちゅ
ぶちゅ
うぐぐ！！

のるん



俺は生チ●ポを
香苗ちゃんの
オ●ンコに
当てがいました。

……んっ！

ぬち



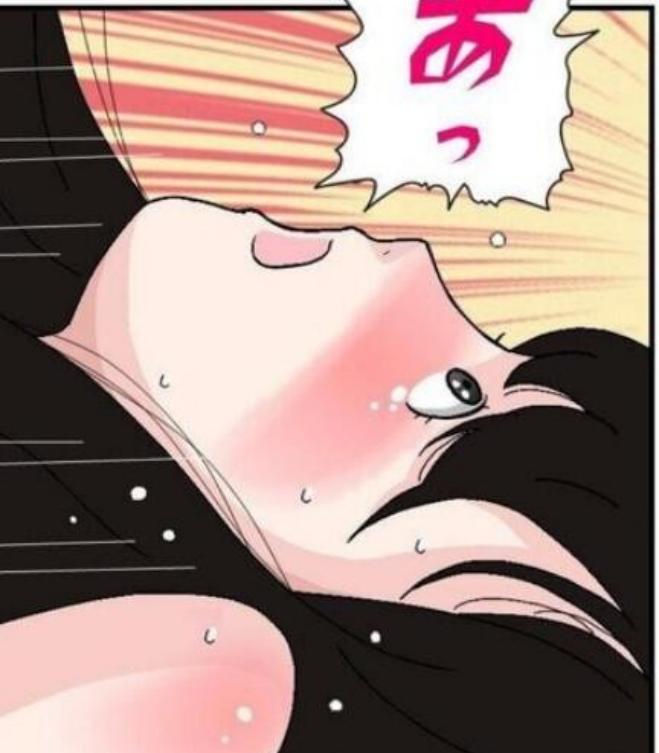
香苗ちゃんは
ニッコつと微笑み
ながら頷きました。

ぐっ



すぐ済むから
我慢しててね。

ふー



あっ

チ●ポをオ●ンコに入れて
行くと香苗ちゃんは目をカッと
開けましたが、俺は構わず
マ●コの奥までチ●ポを入れました。



ずぶずぶ



香苗ちゃん、
今度は後ろから
入れるよ！

んっ

ぬる
ぬる
ぬる



んあっ

ずぶずぶ



ずっ



香苗ちゃんは
上下に頭を
揺らし、髪を
振り乱しながら
悶えている。
俺はその様子に
興奮しながら
狂った様に腰を
動かしました。

ぱん
ぱん
ぱん



あ

あ

あ



あっ、はっ、
はあんっ……
こんな、ああっ
……っ凄い、
オジサ……ン。

あっ

あっ

やっ

ぶちゅ
くちゅ
ぶちゅ
くちゅ

肉棒と膣の擦れる
ちゅぷちゅぷと
いったイヤらしい
音が静かな神社に
響く……



ぶちゅ
くちゅ
ぶちゅ
くちゅ



んく
つう
!!

んっ

んっ



ちゅく
くちゅ
ぶちゅ
くちゅ

んっ

あっ



あっ

……イっちゃう
……あっ、はうっ
あああんっ……

あん

くら

くちゅ
くちゅ
くちゅ
ぶちゅ

か、香苗ちゃんっ、
オジサンも……
イキそうだよ!

膣がギュツと
締めまり
ちゅポを強烈に
掴んできます。
今まで以上の
快感が起こり、
俺は急激に
射精感が高まる
のを感じました。



ぱんぱん
ぱんぱん
ぱんぱん

あっ……!!
イツちやうう
……やああ
ああんっ!

あっ

あっ



!!

あっ



あがあ!!

どくん
どくん
どく



うおっ、出るっ……
出るうっ……!!



はあ

はあ



ひく

ずるん

はあ

俺は初めて
とセックス
した満足感と、
信じられない
ほどの射精の快感
に暫く浸って
いました……。

香苗ちゃん：…
もしかして、
エッチした事
あるのかな？

うん、あるよ……。

春休みに初めてした。

今日みたいに知らないオジサンに

やられたよ。最初は痛かったし、

気持ち良くなかった……。

そのオジサンに何回も呼び出されて

やってたらその内気持ち良くなった。

いつも生で中出しだったよ！

今はそのオジサン居なくなってる、

丁度エッチしたくてたまなくなっ

たから今日エッチさせたんだよ！

等々色々聞きだしてたら興奮して溜ら
ず二発目も中出し発射！それから時間
的にもやばそうな時間なので帰るこ
とにし、車で送ってあげてる途中に
ムラムラして人の来ない所に車止
めてカーセックス！今度も中出し
発射！それから香苗ちゃんは今は
従妹の家に來てるが、どこ住み
なのか聞いてみるとなんと俺ん家
の近くという事が判明！しかも俺
の子供と同じ小学校だった！

(ならまたすぐに会えるね！)

今度もいっぱいエッチしてね！チュ！)

と香苗ちゃんはキスして来て

車から降りていきました。

この事があってからも三回も

香苗ちゃんと会ってエッチしました。

四
わ
れ
た
少
女

工
作
員

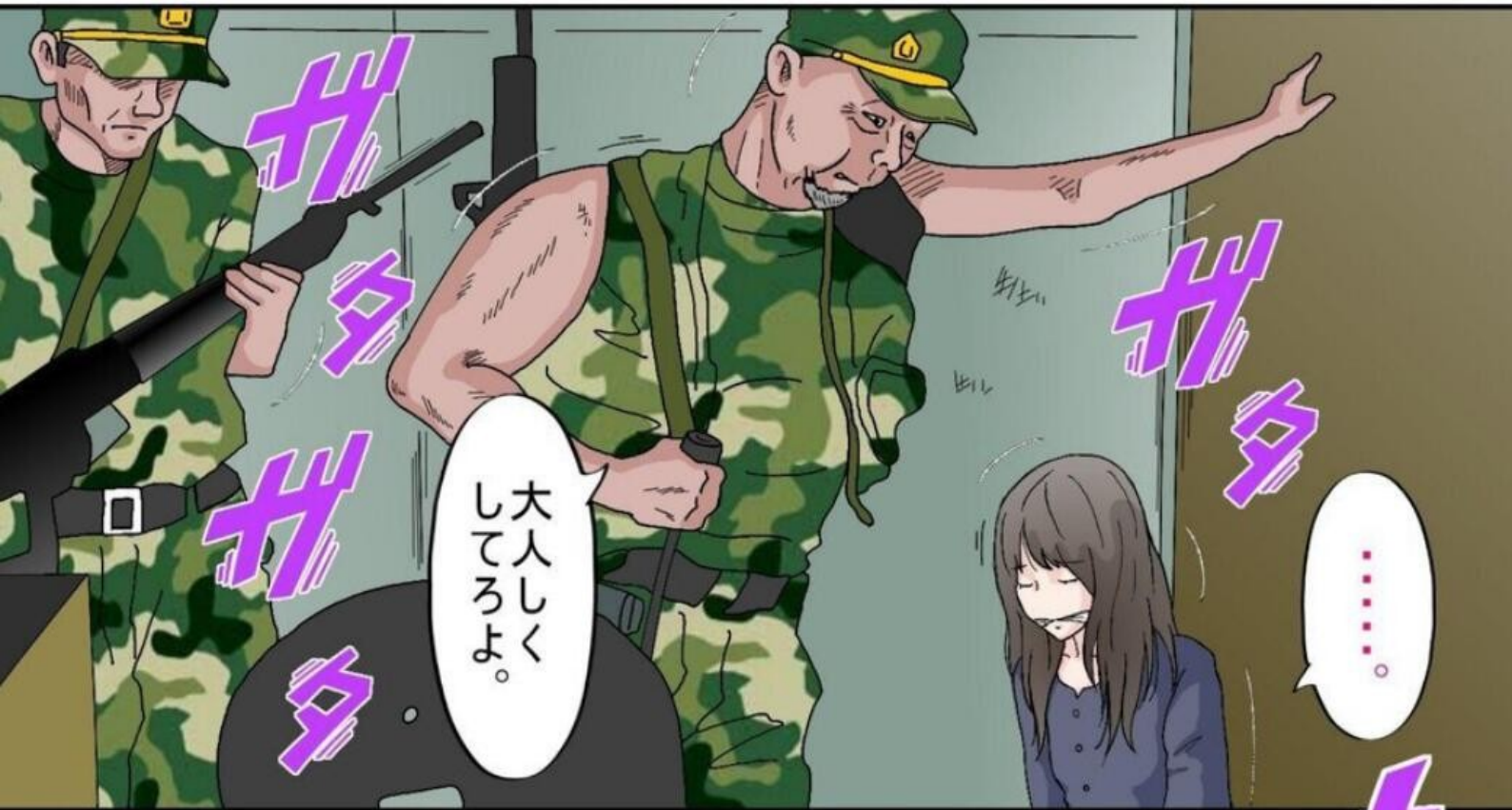


こたつぼとん





隣国特別収容所護送中。





オラ！こっちだ！

いやっ！離して！

よしっ！
そこに寝かせろ！



ううう！！

ブ
ツ



ううー！

ひゅっ
ふふ。



効いてきたな。
：よし、よし。

はあ
はあ
ああ……



！！

極度の鬱症状や、自殺願望者の脳の伝達を遮断する効果がある……。



私が開発したネフェロムと言う薬品だ。

この薬は極めて今後世界的に
有効的な医薬品として
期待されるが……。

人体の投与については
臨床段階にある。
副作用も懸念される。

他にも自白させる為
に性行為によって、
強い快楽の作用も
効果を発揮している。

今回の実行犯は恐らく
任務遂行の為、自害する
命令を下されていた
だろうがその直前に
拘束されその機会を
逸している。

工作隊兵士 日本人 17歳

久しぶりに家族と過ごすのを許されていたのか本人も油断していたのだろうか。

しかし、こんなガキが実行犯なんてなあ……、全く驚きだ……。

普通に公園で一般人と紛れて遊んでいた所を拘束した……。





なるほど……。

奴らは自分で
命を絶つ事は
出来ない。

そう言う概念が
脳内から消え失せた
と言うだけなのだ。

何をされても
覚悟してると
言うわけか。



我々にフアック
されても良しと
思ってるわけだ。

大した
薬品だ。

そろそろ
完全に効いて
きた頃だろ。

あの位の娘を
あいつのいきり
犯したって
思ってた。



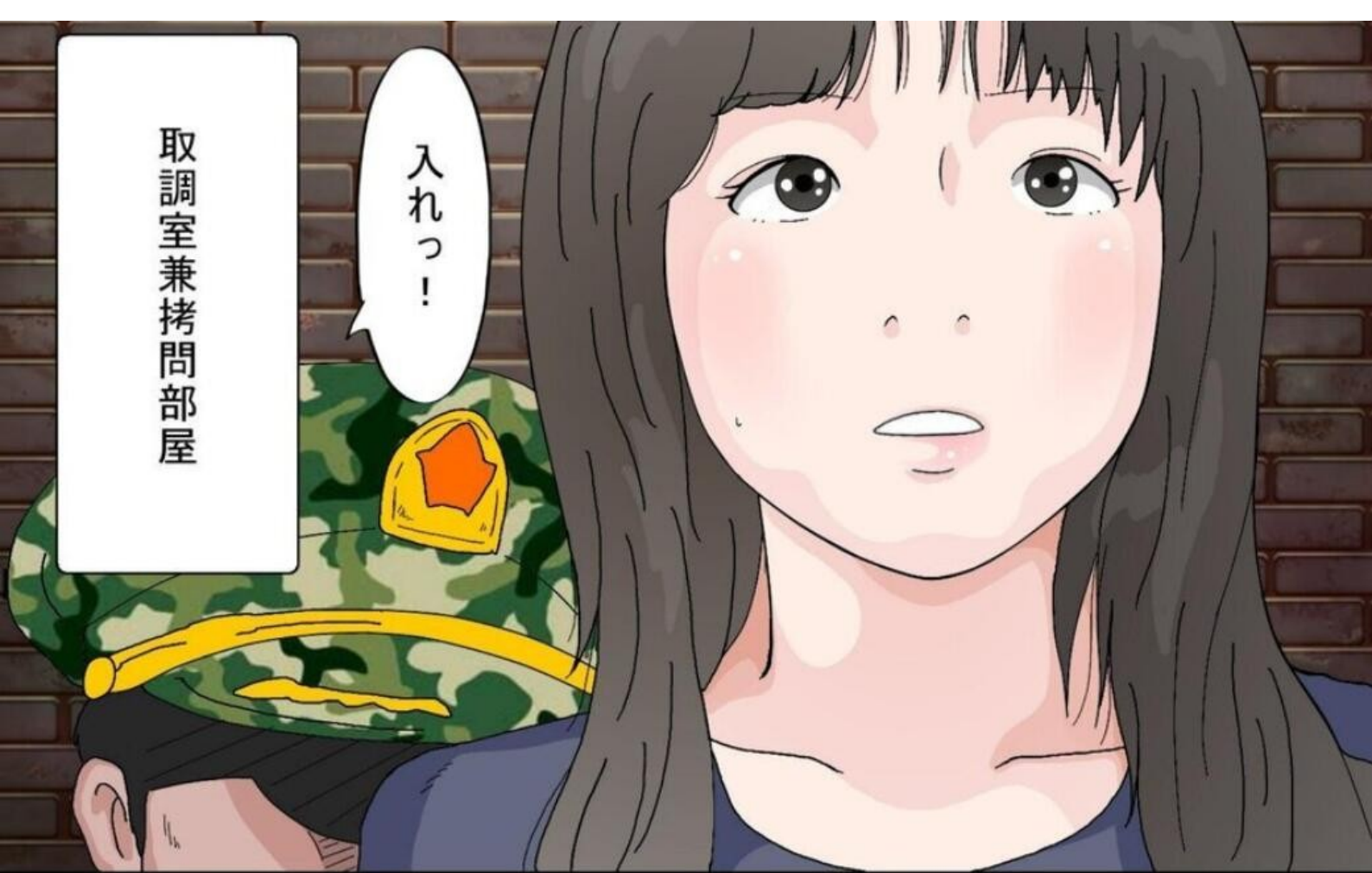
拷問で情報を聞き出す
事も可能となる筈だ。
タップリと全員で
楽しませてもらい
ますよ……。

早速始めて
くれたまえ。

ふ
ふ
ふ

取調室兼拷問部屋

入れっ！





訓練を受けていた
親からも聞いて
いただろう……？

する……

……



お前も
捕まれば
こうなると
解ってたろ。

くくく。

グッ



ずいっ

全体的にまだ骨っぽい
身体つきだがそれが
ソソルな……。

^^^



乳が膨らみ始めた。
女が工作員とはな。

ナッ

少女特有のスラリとした白い脚……

無機質なレンガの壁に寄りかかってマネキンみたいに棒立ちしている。

足広げろ！

……っ！

すう

ガシヤ

びくっ

ようしっ！

バシヤ

あっ

くちくち

へっへっ

こう言う事も想定されて訓練してたのか？

かおん

……っ。

……んっ

バシヤ



お前の家族は
何処に隠れて
るんだ？

答えろ！

……っ。



はあ……
べちや

ぎわ
ひっ



はあ……

たろお

ぎわ
びちや
べちや

くうっ



……答えないか。

……もうっ。

すう

ビクッ



膨らみかけ最高だぜ。

ぴちよ

ぴくん

んっ

ふう
ふう



お前は特殊な薬品を
投与されたんだ。
自害は出来ない！
何処まで耐えられるかな？

はあ
はあ

……



あぁ……
オッパイ……生の

ちゅばちゅ

ちゅら

ちゅら

あっ



ちゅばちゅ

あんっ



ぴくん

んぐんぐ

ちゅらちゅら
ちゅらちゅら
ちゅらちゅら
ちゅらちゅら
んちゅ

あっ

くう

ぴく



台の上に乗れ!



ようじー!

タツプリと可愛がってやるぜ!

ギシ



手足を
広げろ！

はっ！

ガシッ



一番は俺だ！

バウッ!!

!!



しっかり
抑えてろよ！

ビキ

ビキ



マンコが
丸見だぜ。

流石工員。

ズ
ズ
ズ

泣くわけでもなく
黙って耐えてるとは
やはり大したもんだ。



ズ
ギッ

だが何処まで
耐えられるかな？

ズ
ズ
ズ



ふん!!

かっ!!

ズ
ズ
ズ



オラ! どうだあ?

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん



くちゅ

ぶちゅ

ちゅぶ

はっ



あっ

ギシ

あっ

ギシ



俺の極太
包茎チンポ
に感じてん
だよ。

ぶぶぶぶ

あん

はっ

はっ

あっ

ギシ

ギシ

コイツちよつと
感じ始めて来てん
てんじゃねーか?







中にタップリ出してやる!

ぶちゅるぶちゅる

うぐう

どくどく



接吻しながら出すのが好きなんだ俺は!

ガシ

ひっ



ズ
ブグウ



のるん

ひく

ひく



早く言え!

あがあ!!

ぐら
ぐら

ぐら
ぐら



まだまだ、これからだっ!

四番目は俺だっ!

ふら

ふら



やめもう

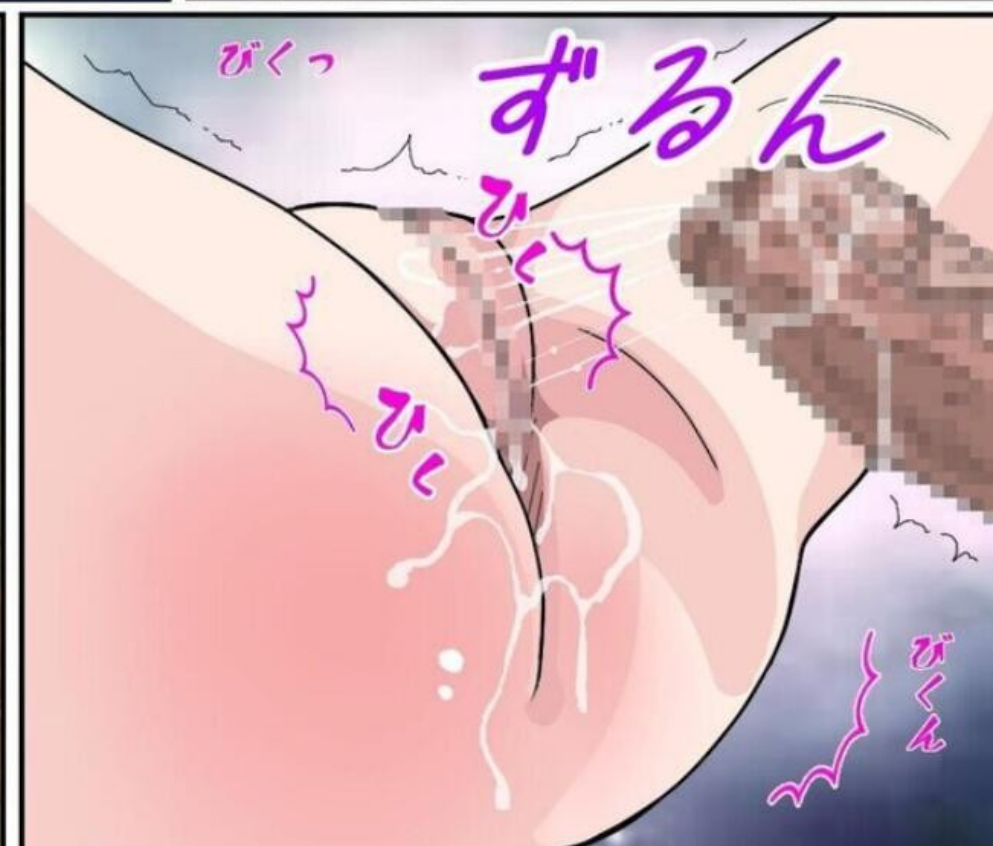
ぐら

ぐら

ぐら

ぐら

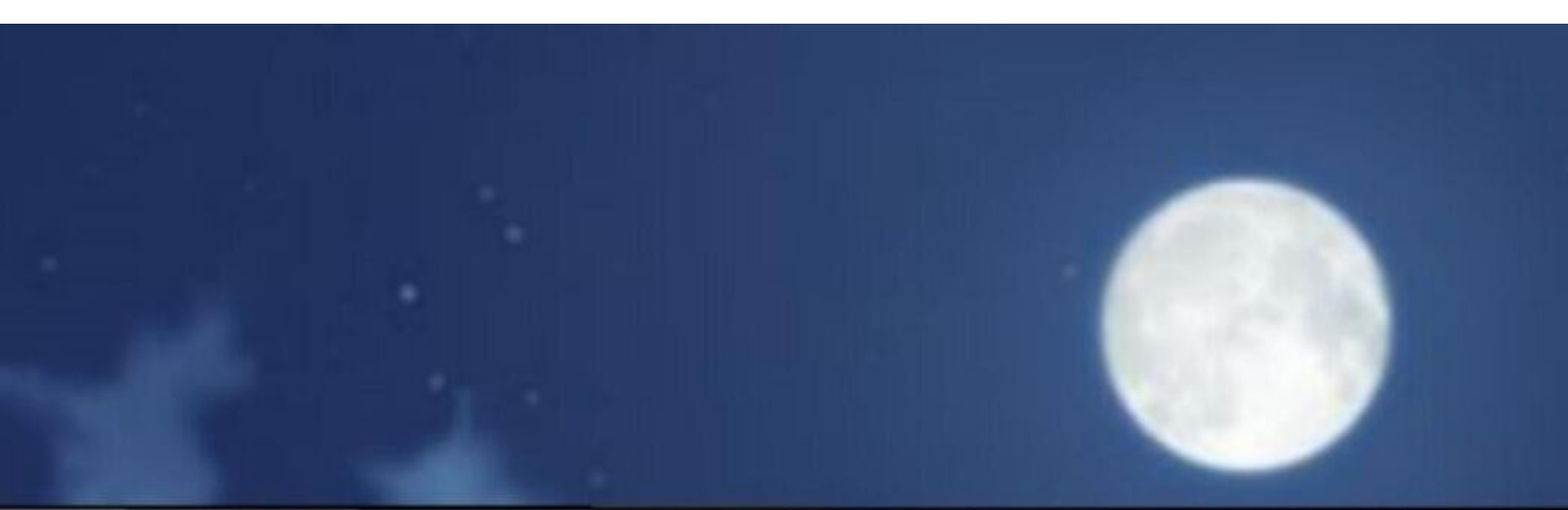
ぐら



夏の公衆便所



こたつぶとん



風がやんで、空一面を覆った
薄い雲が、月の輪郭をかすませ。
蒸し蒸しとする夏の暑い夜。

俺はいつものように、くそ暑い
季節でもコートを羽織って
街中をウロウロしていた。

獲物を見つけた時に、自分の
包茎チンポコを見せる為だ。
俗にいう変態キモジイって
わけだ……。



夜の十時……見つけた。

大抵の親は塾が終わったたら車で迎えに来るのだが、稀にシングルマザーの子供が一人でウロウロしている時がある。

半袖の真っ白い清潔なブラウス。

短めの紺色スカート……。そこから伸びる健康的できめ細かい肌のスラリとした白い生足……。

携帯に夢中になっている。

やっぱり街で見かける天然物の小学生は……。

至高だ！

……夜の公園。

子供は腕章をしたジジイ連中が見回っている間に遊んでいればいいものを……。
自分がエロい目線で見られている事に全く気が付いていない。

声をかけてみた。

シカトか、
予想通り。

大人を舐め切った
態度……。





タツプリと
教えてやる！



何の役にも
たたない事を……

学校で教わって
いる身の守り方
なんて



心の中がドス黒い考えで
いっぱいになった……。



キイ……

俺はいつも
自分でも醜いって
思う汚いイチモツを
見せ楽しんでいた
だけだった……。

だが今回は
違った……。



キイ……

犯したい！





まや!!

ガ



いやっ!

離して!

俺は少女の手を掴み裏の公衆便所に無理やり引っ張って行った。もうこの時間はこの辺りをウロウロしている人は居ないのも確認済だ。

滅多に使われていない
公衆便所の為か清掃も
されてない。凄い悪臭だ。

少女は恐怖の為、
身体が硬直して
マネキンのように
つつ立っている。

…あの…

後ろから
抱きつくと、
ブルブルと
少女は震えた。

俺は物凄い興奮が
押し寄せてきた…。

…セックス
させろよ。

…えっ？

小さな尻を撫で
たり…

さわさわ

やっ！

服の上から小さな膨らみを

存分に味わった。

むぎゅう
きみ
きみ
きみ

…めて…



かああ

顔を真っ赤にしながらいく姿が興奮する。

すっ…

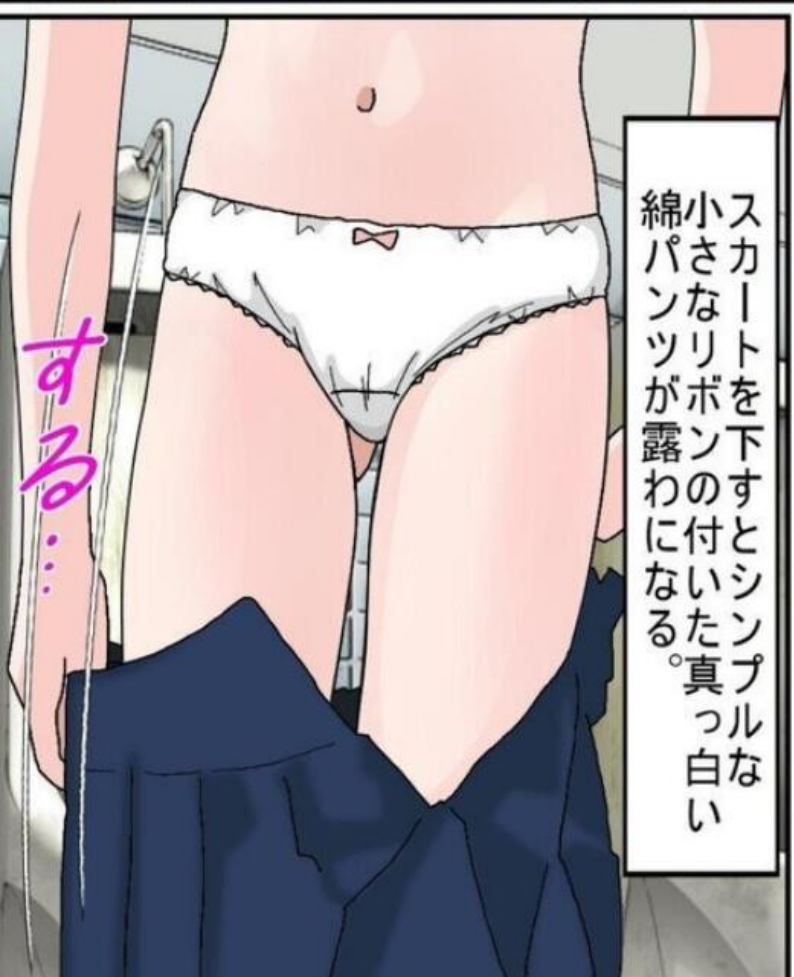
全体的に骨っぽい身体つきだがちゃんと女の子していた。



俺はドスの効いた声で脱ぐように言った。



ブラウスの隙間から子供用ブラが見える…。



する…

スカートを下すとシンプルな綿パンツが露わになる。



ついにスカートに手をかける…。

俺はまず、目で
犯すように
少女を眺めた。



ふう
ふう
ふう

この小汚い男子便所の中に真っ白な下着を
付けた小学生の女の子が立っているだけで
更に俺は興奮した……。



子供の蒸れた体温がする
パンツ超しに太股とアソコを
愛撫する……。

ふう
ふう



そしてスポーツブラの上から
膨らみかけの胸を触った。
布地の上からでも柔らかさは
充分分り、乳首の位置も分った。

ふう
ふう

むにむに



少女の胸は
ブラを着け
た時よりは
大きくなり
片手で覆
がせる事
が出来る
出来た。



次に子供用
ブラを脱
がして直接
膨らみかけ
の胸を触
った。

やあ!!



大人の胸とは違い、
綺麗な小さいものの、
薄いピンク色だ。

ふたふた



口に含んで吸い、
心行くまで小さな
膨らみを楽しんだ。



乳首を舌で
転がしたり



両手で胸を揉んだり

もみ
もみ



べろべろ



ぶちゅ



ちゅばちゅば

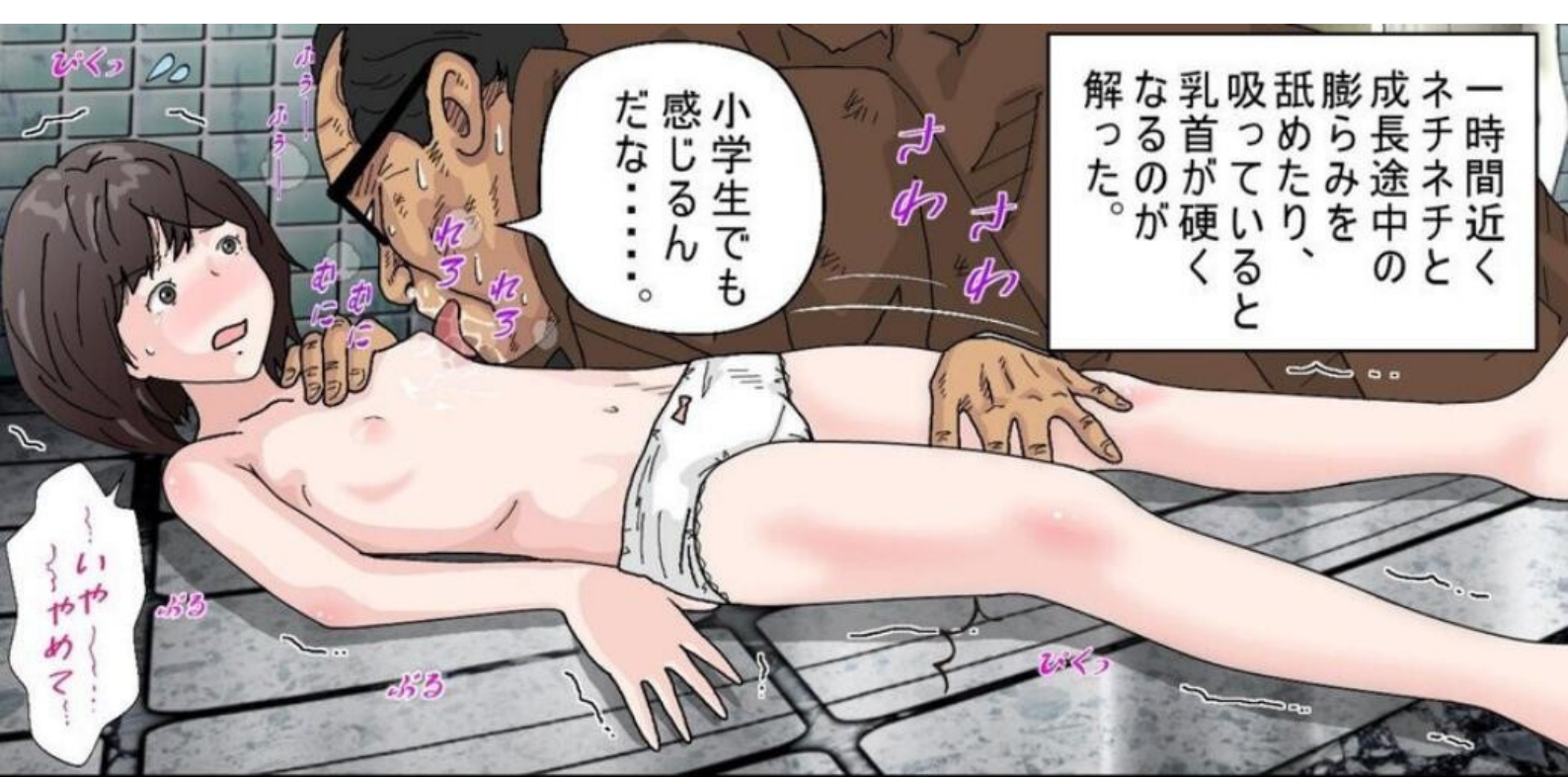


そして、可愛い顔に
舌を這わせ顔全体を
舐めまわしたり、
鼻の穴に舌を入れたり、
無理やりキスをした。

べろおー

ずいっ

その後も
しつこく脇を
舐めたり、
乳首を摘ん
だりした。



一時間近く
ネチネチと
成長途中の
膨らみを
舐めたり、
吸っている
乳首が硬く
なるのが
解った。

小学生でも
感じるん
だな……。

いややめて



いよいよ
メイン
イベント。
俺は身体中
舐め回す
みたい
にパンツを
目指して
舌に移動
した……。



俺は少女の
言葉を
無視して
胸を弄び
続けた。



唾液でパンツが
透けていく。



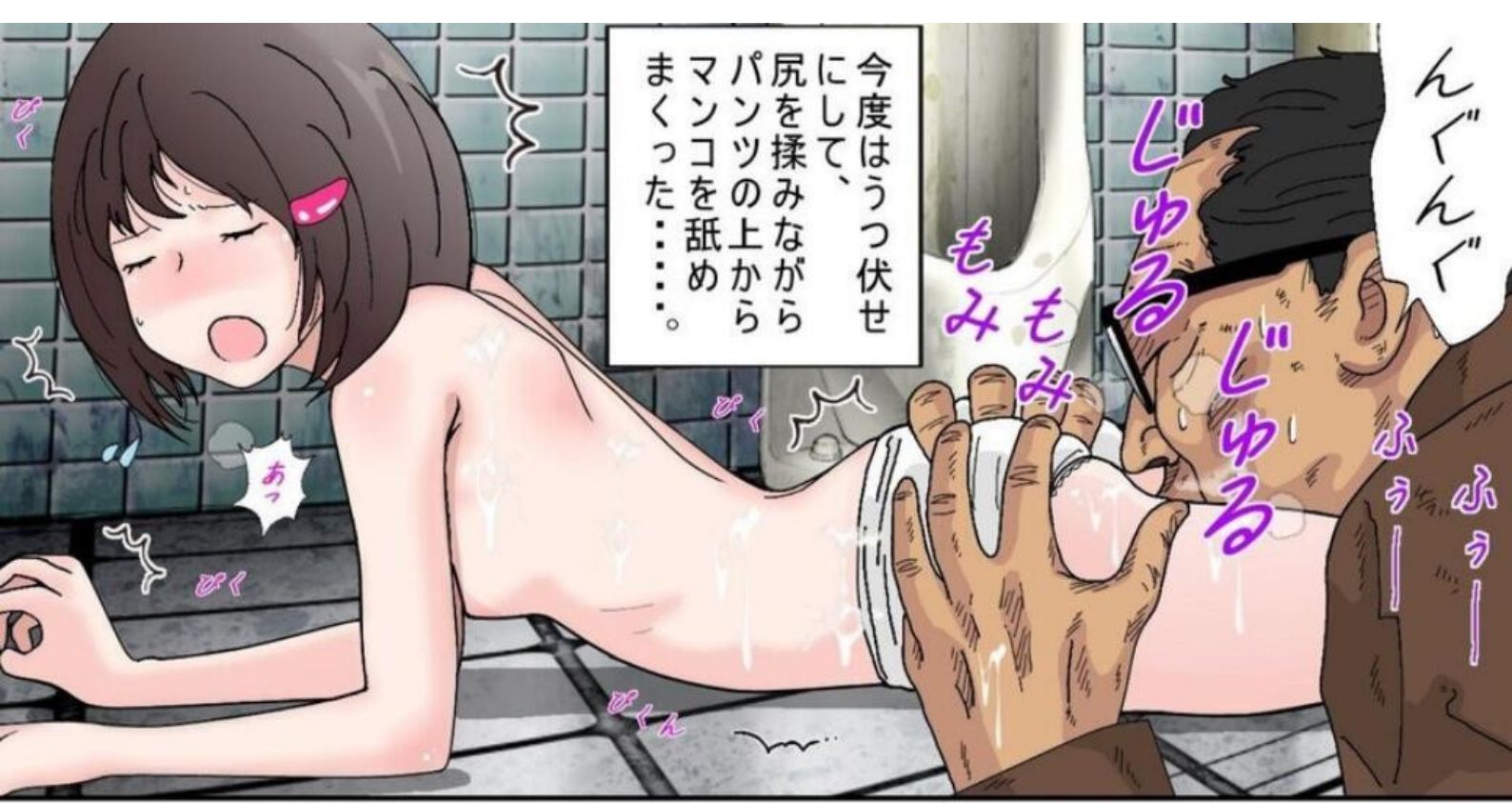
綿パンの上から
アソコを舐め回す。



俺の臭い唾液で
体中べとべとだ。



自分のしてる
行為に興奮する。



今度はうつ伏せにして、尻を揉みながらパンツの上からマンコを舐めまくった……。

んぐんぐ

じゅる

もみもみ

じゅる

ふうふう

あっ

びく

びく

びくん



ようし、そろそろ……。

べろべろ



もう唾液で透けて縦筋が浮かびあがっている。

あっ

びくん

はあ

ぴちぴち

んっ

びく

んん



きゃあ!!



ずる

ついに高学年のマンコとご対面。

!!

綿パンツを脱ぎ終えた少女の
小さな尻を円を描くように
丹念に舐め回した。



思いっきり開いたりした。



俺は少女の割れ目を
なぞったり……



割れ目を見ると、
遠目からでは分からぬが
うっすら毛が生えていた。



その後、プニプニのふくらみを
舐めあげてから、舌先を入れ
ヌルついた粘膜を楽しんだ。



小さなクリを舌先で突いたり
最初は軽くキス……

自分でも触った事のない
ような箇所を触れて、
少女はピクピクと何度も
反応していた。



粘度の高いマン汁が糸を引く。



もう少女のオマンコは
俺の唾液と愛液で
グチヨグチヨだ。





早くやらないと
何時までも帰れないぞ。



そして包茎チンポコの
皮を剥かせる。

むき



今度は俺の事を
気持ち良くしてくれよ。

俺は少女の手首を
掴み無理やりチンポに
引き寄せた。

ぼろん

ググッ

やあ

!!



うぶっ

ぶらん

少女は余りの臭さに
鼻をつまみ目に涙を
浮かべていた。



匂いを嗅ぐ
んだ……!!

く、臭い!

ぶらん

あ

包茎チンポコの中は、
ヌルヌルのチンカス
でいっぱいだ。



皮の中に舌先を入れさせ
尿道口、裏筋、カリの溝の
掃除をさせる。物凄いイカ臭。
その匂いに少女は顔を歪める。



舌先で掃除をしていると
徐々に皮が剥けていく。
龟头全体にチンカスが
ヌルヌルこびり付いている。



少女の指と口の回りも
俺の濃厚なイカ臭い
チンカスと我慢汁で、
ベトベトになっていた。

「口に含んで舐めろ」と少女に指示すると
疲れと絶望感で逆らう気を無くしたのか、
小さな口を精一杯開いて口に咥えた。



拙いフェラで
あつたが小学生が
俺の包茎チンポを
咥えてるシチュに
興奮した。

余りの苦し
さに溜らず
咽て咳きこむ。





丸裸で恥ずかしがって姿を見てると……

かあ



俺は口留めする為に、写メで少女の顔と裸を撮っておいた。

むらー！むらー！



発育中のオツパイや



きゃあ!!

グブグブ

ズル



ビキキキ

俺の包茎チンポコがギンギンとまた大きく弓なりに反り返った。少女が大人しいので調子に乗って俺はトイレの床に寝かせ、



だめ!!



ググ

足を引っ張りチンポコを割れ目に擦りつけた。

俺は一気に一番奥まで挿入した。少女は苦しそうに喘いでいる。今まで経験した事の無い締め付けだった。



トイレには、俺と少女の肌が打付けあう音と、少女の喘ぎ声が響いている。



俺はお構いなしに腰を激しく動かす。



小学生高学年
のオマンコは
締め付けが
きつく、
チンポコを
包み込む
吸着力が半端
ない。



少女は目に涙を浮かべて、
痛みにも死に耐えている。



チンポコがマンコの
中で強烈に擦られ、
最高に気持ちが良い！



…もう、抜いて…

…いやあ…

俺は次に、少女の腕を掴んでから両手を後ろに引いて、海老反りのような恰好をさせ、激しくバックからオマンコを付きまくる。



余りの激しさに、少女の眉間にシワがよる。



腰を動かす度にカリ首が刺激されまくり、腰の動きが気持ち良すぎて止まらなくなる。



悪臭のする静かな公衆便所に、さっきより湿った音が響き渡る。



その不潔極まりない床に顔を伏せ、尻を突き上げる少女の姿を見て更に興奮した。





最後にメモリーの
限界まで写真を
撮りまくった。

あ……

はあ

もう、すっかり
夜中だ。
流石にヤバいと
思い。

はあ

はあ

はあ

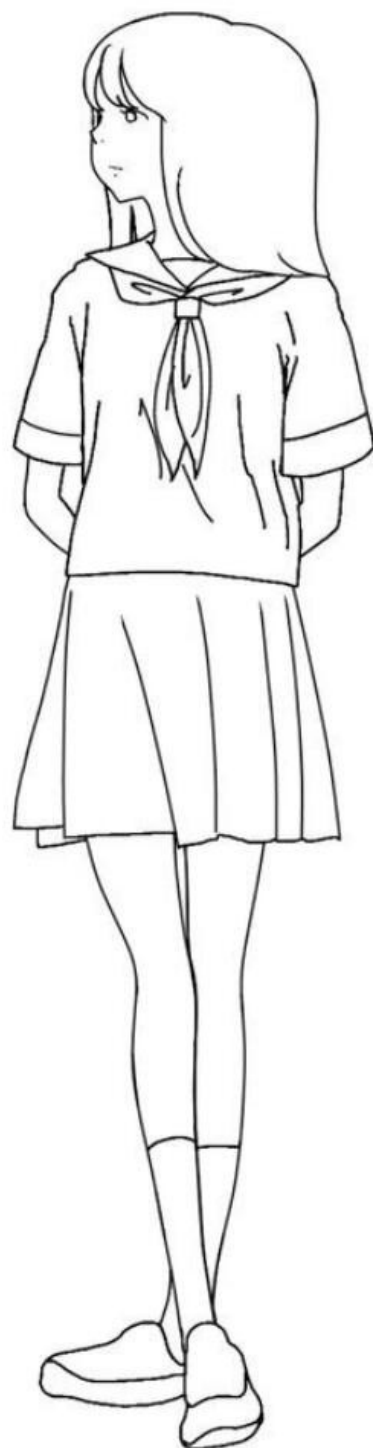
外に誰も居ないか確かめてから
公衆便所を後にした……。

き
よ
ろ
き
よ
ろ

ぷっ

おわり

有難うございました。



製作



中です。

